



## 2026 明海大学

# 「大学と地域連携の未来」シンポジウム 生成AI時代の教育 ～ AIで変わる学びの可能性 ～

実施報告書  
2026年3月



## 目次

---

1. 巻頭言に代えて・開会式学長挨拶.....	2
2. 当日のプログラム.....	3
3. 参加状況.....	4
4. 基調講演 これからの AI 時代における学びの転換 安井 政樹（札幌国際大学 基盤教育部 准教授） .....	5
5. 学生発表 （留学生等による児童・生徒との交流／大学生による学習支援） .....	1 5
6. パネルディスカッション 生成 AI 時代の教育 ～AI で変わる学びの可能性～ .....	2 3
7. アンケート .....	2 8
8. 2025 年度 METTS 事業参加学生一覧.....	3 3

## 1. 巻頭言に代えて・開会式学長挨拶

明海大学 学長 中 篤 裕

本日は、2026 明海大学「大学と地域連携の未来」シンポジウムにご参加いただき、本当に有難うございます。本シンポジウムは、地域学校教育センターの活動の一環として2017年から開始され、今年で第10回を迎えます。このシンポジウムでは、本学の学生が地域の皆様のお世話になりながら取り組んでまいりました地域連携活動の集大成として、その概要や成果を学生の発表により広く皆様にご紹介させていただくとともに、毎回、テーマを定めて、基調講演やパネルディスカッションを通じて、考察を深めることによって、大学と地域の連携や教育活動を一層向上させることを目指してまいりました。今回は、もはや日常のツールとなっております生成A Iに注目し、「生成A I時代の教育～A Iで変わる学びの可能性～」をテーマとしました。今回のシンポジウムを生成A Iの教育の場での具体的な活用の在り方や様々な課題について教育関係者や地域の皆様と共に考える場といたしたいと存じます。



本日の基調講演では、札幌国際大学基盤教育部准教授の安井政樹先生に「これからのA I時代における学びの転換」を演題としてご講演をいただくことになっています。生成A I活用の教育における現状から今後の可能性についてのお話をさせていただけると聞いております。学生発表では、学生や留学生等が実施した小中学校や高等学校の児童、生徒を対象とする交流や支援について紹介させていただきます。これらの活動は、学生にとって様々な経験を得る貴重な場となっております。これにより、自身の成長を実感し、将来について考える非常に重要な機会をいただいています。本学の学生が様々な場所でお世話になり、こうした学修の機会をいただいていることを、大学側として深く感謝いたします。

更に後半のパネルディスカッションでは、教育連携をしております東京都立南葛飾高等学校の伊達崎広校長先生、足立区教育委員会学力定着推進課統括指導主事の西野厚様にご登壇いただくほか、印西市教育委員会から教育D X専門官の松本博幸先生をお招きし、パネリストとしての参加をお願いしております。更に2人の学生を交えまして、今回のシンポジウムのテーマについて様々なご意見をお聞かせいただけるものと存じます。

最後になりますが、本日はご多用にも関わらず、連携協定を締結しております東京都足立区教育委員会教育長の中村明慶様、千葉県浦安市教育委員会教育長の船橋紀美江様にご挨拶を頂戴いたしますことに厚く御礼申し上げます。

本シンポジウムが新たな時代における小中高等学校・大学教育の発展に寄与し、大学と地域連携の未来を更に広げ得るものとなりますことを期待しまして、私の挨拶とさせていただきます。

2026年2月7日

## 2. 当日のプログラム

- 1 シンポジウムタイトル：  
2026 明海大学「大学と地域連携の未来」シンポジウム  
生成 AI 時代の教育 ～ AI で変わる学びの可能性 ～
- 2 開催日時、会場（※対面とオンラインのハイブリッド開催）：  
【開催日時】2026年2月7日（土）12：20～15：45（受付開始：12：00）  
【会場】2206 大講義室
- 3 タイムスケジュール

時間	内容
----	----

12:20	司会：大場 伊織（外国語学部英米語学科4年） 霜方 柚奈（外国語学部英米語学科4年）
-------	---

**【開会式】**

**【学長挨拶】**

中畠 裕（明海大学 学長）

**【足立区教育委員会 教育長 挨拶】※ビデオメッセージ**

中村 明慶

**【浦安市教育委員会 教育長 挨拶】※ビデオメッセージ**

船橋 紀美江



動画で  
ご確認ください

12:30	<b>【基調講演】これからの AI 時代における学びの転換</b>
-------	-----------------------------------

安井 政樹 札幌国際大学 基盤教育部 准教授

13:30	休憩
-------	----

時間	内容
----	----

13:40	学生発表
-------	------

**留学生等による児童・生徒との交流**

芳野 友介（外国語学部英米語学科4年）

小松 由芙（外国語学部英米語学科4年）

シモマエ サイリエル ミー ピニオン（外国語学部英米語学科3年）

葉 春麗（外国語学部日本語学科2年）

**大学生による学習支援**

知念 咲花（外国語学部英米語学科4年）

花澤 真彩（外国語学部英米語学科4年）

蜂巢 瑠斗（外国語学部英米語学科3年）

比嘉 彩夏（外国語学部日本語学科4年）

寶木原 和心（外国語学部日本語学科3年）

藤原 幹太（外国語学部日本語学科2年）



動画で  
ご確認ください

15:25	休憩
-------	----

時間 内容

15:35 【パネルディスカッション】生成 AI 時代の教育 ～ AI で変わる学びの可能性 ～

パネリスト

- 松本 博幸 (印西市教育 DX 専門官)
- 西野 厚 (東京都足立区教育委員会 統括指導主事)
- 伊達崎 広 (東京都立南葛飾高等学校 校長)
- 早乙女 愛菜 (外国語学部日本語学科 4 年)
- 和田 航英 (外国語学部英米語学科 3 年)

コーディネーター

- 山本 聖志 (明海大学地域学校教育センター 教授)



動画で  
ご確認いただけます

16:35 【閉会式】

【閉会挨拶】

- 藤井 大輔 (明海大学教職課程センター・地域学校教育センター センター長)

シンポジウムのページから当日配付資料をダウンロードできます⇒



### 3. 参加状況

教員 (小学校・中学校・高等学校・大学等)	50
教育委員会	50
学生・大学院生	110
地域住民	10
マスコミ	3
その他	10
計	233

## 4. 基調講演

---

これからの AI 時代における学びの転換

安井 政樹（札幌国際大学 基盤教育部 准教授）

記録の詳細についてはこちらをご覧ください（開会式～基調講演）⇒



## 一 講演内容（発言の趣旨を踏まえた要約版）

### ◆はじめに

皆さんこんにちは。札幌国際大学の安井でございます。私は小学校の教員を20年ほどしており、今、教員養成ということで札幌国際大学におります。文部科学省の学校DXアドバイザーというのをやっております、全国各地を歩いているという状況です。

早速ですが、（動画再生：ホワイトハウス前の講師の映像）先日私はアメリカに行っていました。これはホワイトハウスですが、気付く人は気付きますね。そうです、私は行っていません。

「Sora」と書いてありますが、「Sora」と書くまでは分からないですよ。 「Sora」と書いてないところを編集し続ければ、私がアメリカに行ったかのような動画を無料で作ることができてしまいます。

僕は小さい時に電車の運転士さんになりたかったので、「僕を電車の運転士にして」と言うと、このように僕は電車の運転士さんになることができます。バスの運転士になりたかった時もありました。「今後の夢は、宇宙で授業してみたい」と言うとそれが可能になる、こんな時代がやってきた、ということなのです。



ちなみに、Chat GPTに私のことを聞くと、ハルシネーションなく教えてくれます。これは「安井政樹」という漢字の人が少ないからです。同姓同名の人が多ければ、我々も見分けがつかないですよ。 「この人はどちらの人なのだろう？」 「この人は誰なのだろう？」 というように見分けがつかないのと一緒で、AIが見分けられないのではなく、「情報に偏りがあるから」ということなのです。

AIは嘘をつくなど、色々な心配もあるかと思いますが、今日はその辺の謎に迫ってまいりたいと思います。文科省のアドバイザー、文科省の仕事として行く時と、個人として行く時があるのです

が、一昨日は山形にいて、明日は奈良へ、その後大阪、香川、高松へと、全国行脚しているという状況です。それだけAIについての関心がすごく高いということなのです。

私はAIやインクルーシブ、道徳、情報リテラシーの本などを書いています。専門は道徳教育です。「心の在り様」と「AI」というのはとても大事だということです。なぜインクルーシブとAIなのかというと、目が悪い方、眼鏡をかけていて「ずるいな」と言われたことはありますか。当たり前ですよ。絵を描くのが下手な子とか、腕がない子が「こういう絵を描きたいな」とAIで絵を描いたら「ずる」ですか。ずるではないと思うのです。今はAIで喋ることもできますよね。吃音の子とか、話すのが苦手な子とか、外国籍で日本語がうまく話せない子が、AIを使って皆と同じ土俵に乗るのは「ずる」ですか。違いますよね。「眼鏡をかけたら他の人と同じくらい見えるようになるよ」「AIを使ったら他の人と同じくらい何かができるよ」というような、そんな幸せな世界が待っているような気がするわけです。

このようにとてもいいものなのですが、悪用もできてしまう。そこで「禁止かどうか」という議論があるのですが、「その悪用する一部の人のために禁止してしまっているのかな？」ということも、今日皆さんと考えていけたらと思います。

### ◆生成AI時代に求められる学びとは

私は2024年度に177校に行きました。全国で研修していても、まだAIを活用できている学校は少ないです。「AIって嘘つくでしょ？」という学校がたくさんあるのです。

そもそも「使っているの？」という壁がまずあります。学生さんたちもどうですか。卒論とかレポートでAIを使いましたよね。使ってもいいのです。私は反対派ではないので。ただ、それを許せない先生方もいるわけです。それはなぜかということも、今日考えていけたらと思います。

(AI)を使っている、となったとしても、それをどう使うか、という次の壁がやってくるわけで

す。さらに「なるほど、こうやればいいのか」とやり始めたら、「いやいや嘘をつくし」「それ本当なの？」「著作権大丈夫なの？」とか、また横槍が入るわけです。

このように色々な壁がある中で、自分の学校や自分の地域が「どこの壁のフェーズなのか」ということを認識しないと、解決策がおかしくなってしまいます。目が痛いのに正露丸飲んでも仕方がないですよ。診断を間違えると、こういう研修をしても全く役に立たないわけです。だから私は教育委員会の方に言うのですが、「そもそも(AIが)使える状況なのですか？」「使いたいマインドになっていますか？」「どこの状況かが分からないと研修はできません」と。もっと言うと、教育委員会が「うちの自治体では、既に結構先生たちがAIを使っています」と思っている、そもそも使っていないかどうかやはり腑に落ちていなかった、ということもあるわけなのです。この辺にAI活用の壁がありますので、学校現場に行った時も、どこに壁があるのかということに気をつけてみるといいと思います。

まずこの動画を少しだけ見てみましょう。(動画再生：集団就職列車の映像)

これは昭和40年代の映像です。こういう時代の教育がどういう教育だったかと想像してみたいです。有無を言わされず「このクラスはどどこに行きます」という状態ですよ。「私はこれをやりたい」と言っている場合ではないわけです。そんなことを言うのではなくて、みんなのために、言われた通りに働きます、ということが素晴らしい時代だったわけです。そういう子を育てるための教育をしていた、ということです。もっと前になると、我が国には国のために命を捧げてほしいという教育をしていたわけです。だから、国とか社会の状況によって求められるものが変わって、それに合わせて教育も変わっていくということです。

先生たちが悪いわけではありません。教育の方針とか世の中がそういうことを求めていたから、その時代その時代には精一杯生きていたわけです。まさか先生たちが、自分の教え子を殺そうと思っ

て教育していたとか、自分の教え子の夢を叶えないように教育していた、という認識ではないのです。その時代に合った教育をそれぞれしてきたのだけれども、それがたまたま子どもにとって幸せだったかどうか。この時代は、出稼ぎに行って、実家にお金を送って、両親にも喜んでもらって、下の子ども学校に行けて、ということが幸せでウェルビーイングだったわけなので、私は、その時々教育を否定しているわけでもないし、戦争に行って国のために命を落とした方を否定するものでもありません。ただ言いたいことは、「その教育が今に合っているのか？」「今の価値観と合っているか？」ということです。その当時は多分正しいのです。ですので、そこは間違えないで聞いていただきたいです。

では、次の場面に進みます。(動画再生：未来のコンビニの映像) こういう時代があるということなのです。つまり、社会の働き方が大きく変わっているという状態です。かつての大量生産・大量消費社会の時代では、組織を支える歯車として、とにかく「読み・書き・そろばん」で、「あなたも休んでも別の人が来たら働けます」とか、「誰もがマニュアルを読めて、マニュアル通りに仕事ができます」ということが「善」として教育がされてきたわけです。

そして、それはもう実はAIやロボットに代替されてしまうわけなのです。「誰でもできる」ということは、マニュアル化できるわけですから。セルフレジが最近増えていますね。例えば、店員が「お姉さん、僕の好みなので3割引でいいです」と言わないですよ。店員はそこで自分らしさを発揮してはダメなのです。レジというのは、誰が来ても、いつでもどこでも同じ業務をしなくてはならないわけです。そういう仕事はAIがやってくれるので、「いつでも誰でも同じことをする人間」を育てても仕方がない、ということなのです。ですから、我々は「機械にできないことができる人間」を育てなくてはならない。「AIに負けない人間」を育てなくてはならない。その時に自分らしさを価値にして個性を発揮しましょう、という時のキーワードが「個別最適」です。一人ひとりに合った教育を、一人ひとりの興味関心に応じて、一人ひとりのニーズに合わせてやっていくということです。

さらに、ここに「本質を見極めるクリティカルシンキング」と書いていますが、「自分らしさ」というのは、自分だけではなく他の人とうまく歩調が合わないと意味がないですよ。それから、少ない人間で会社を回すわけですよ。例えば今まで100人でやっていたスーパーが、5人でスーパーをやるかもしれません。そうすると、とても濃密なコミュニケーションをしなくては行けないのです。だから「協働学習」なのです。「個別最適な学び」と「協働的な学び」は、まさに時代の要請に合った生きる力なのです。文科省が言っているからとかではなく、実はこの教育とは未来を創っている、ということなのです。

ちなみに、今小学校1年生の子が、社会に出る「大卒の年」は何年か分かりますか。2041年なのです。つまり、我々の教育は2041年の社会を作っていることになるわけです。ですから「私はもうすぐ退職です」とか「今の時代がどうです」ではなく、「2041年にどうなっているかな」ということを考えて、我々は教育をしなくては行けない。どうなっているのでしょうか。AIだらけでしょうか。もしかしたら、僕が3Dで札幌で（講演を）やっているかもしれない。みんなも家でゴロゴロしているけれど、ゴロゴロしていてもスーツ着ているようになるかもしれない。夢のような社会が待っているかもしれません。それは「ずる」に聞こえるかもしれないけれど、身体が動かなくて病室にいる子でも、当たり前のように授業が受けられたら幸せではないか、という意味なのです。

（動画）これは何を風刺した映像か分かりますか。これは、学校に来たら、学校の中は大昔だった、みたいな感じですよ。もう1つ。この子たちが学校に行きます。そうすると、学校の中はなぜか昭和みたいな感じですよ。このように、今の日本の小学校は、時代は変わったのに未だに漢字テストとかをやっているのですよ。「全員同じ漢字が読めるようになってほしい」とか、「九九を全員唱えて、全員計算できるように」とか。なぜかテストの日は決まっていますよね。生まれた日も、立てるようになった日、歩けるようになった日も、お話しできるようになった日も違うのに、同じ日に「2の段」ができるようになりなさい、などと言っているのです。「あり得ないでしょ、我が国の教育」



と思うわけです。これは我が国の教育を否定しているわけではなくて、それは「当時は良かった」ということです。戦後の教育が始まった頃、高度経済成長はそういう教育のおかげだったわけです。ただこれからの令和の時代に、その教育が本当にいいのか、ということは問い直す必要があるということです。否定するという意味ではないですよ。当時から良かったのだが、それがマッチしていませんか、転換していかなくては行けないですよ、ということです。

皆さんの受けてきた小学校教育を、皆さんがこれからやってはだめですよ。時代が変わったのに、自分が受けてきた教育を再生してはだめだ、ということをもまず意識してもらいたいと思います。

（動画）これは2025年です。2041年はどうなっていますか。そういうことを考えながら、我々は教育していかなくては行けない、ということになるわけですね。（AIが）励ましてくれたり、扇風機をつけてくれたり、眼鏡の中に入るとか今はありますけれど、そんな時代が来ているということです。

今まで求められた力というのは、覚えたものを再生する力なのです。共通テストなどもそうなのです。短時間にパッと出せる。決まった60分の中で覚えてきたことをパッと書ける人間が求められてきたわけけれども、これからは課題を解決する力がまさに必要だということです。

さて皆さん、スマホはお持ちだと思うのですが、スマホに入っている電話番号をいくつか覚えているか、指で数えてみてください。昔は「ピッポッパ」で、もっと昔だとガラガラガラというダイヤル電話があったのですが、そうすると、おばあちゃん

家や友達、近所のタクシーの電話番号とかをいっぱい覚えているわけです。昔はとにかく電話番号を覚えていたし、覚えるのが当たり前だったし、覚えさせられてきたわけです。スマホを使うと、家族全員の電話番号とか覚えていないのですよ。記憶力が落ちているわけです。「スマホ悪」ですよ。記憶力を落とすのだから。どうですか、「そんなわけない」と思いませんか。

スマホが記憶力を落とすから使わないか、というところではなくて、電話番号は覚えなくても電話はかけられるのです。つまり、電話番号を覚えるというのは、記憶するということが「電話をかけるための手段」なのです。目的は「電話をかける」です。ですから別の方法で電話をかけられるので、名前から選べばかけられるので、我々は「電話番号を覚えるという能力」は失っても構わないということです。

ですから、漢字を覚えて書くという力が本当にこれから必要なのか、ということです。漢字を覚えて再生することが目的ではなくて、知らない漢字を読めたり、知らない漢字を書けたりすることが大事なのです。それは自分の脳(を使う)だけでなくもいいのではないかと、という話なのです。AIでもいいかもしれないし、Google先生でもいいのではないですか、という転換ができるかどうかなのです。それができないから、先ほどの映像のように、未だに昭和の教育を教室の中でしているのです。

このあたりの教育観の転換というのは考えなくてはいけません。「素手で何でもする能力」を求めるのは教育ではありません。「修行」です。教育は「道具をうまく使う能力」を育てなくてはいけません。分からない漢字は、辞書を使った方が偉いのですか。教科書で調べる方が偉いのですか。Google先生に聞いたらずるのですか。スマホに聞いたらだめですか。いいのではないかと思うのです。教育は人の力を高めることなので、最終的に分からない漢字が書けたらいいのではないかと僕は思います。ただ、最低限、読めないとだめだと思う。全く読み書きできないと何にもアクセスできない。スマホに入っている人の名前が読めなかったら、電話がかけられないのですから。ですから、その目的に合った

能力は身に付けなくてはいけないのですが、「全部いらぬ」という極論ではないわけです。バランスは必要だ、ということ。

「辞書はいいけれど Google先生はずるい」などと言う人も未だに学校にいます。謎ですね。「ネットなどで調べていたら、辞書を引けない人間になるのです。それでいいのでしょうか」などと講演後にご質問いただくことがあるのですが、辞書を引くことは手段です。さきほどの電話番号と一緒に「言葉を知ることが目的」なのだから、その手段はどうでもいいのです。カンニングとかは倫理的に問題があるけれど、きちんと調べているのだから、辞書を引けない人間になっても別にいいということなのです。なぜ私がそう思っているかというと、習った漢字を記憶し再生するテスト、という物差しで見ると、確かに今の時代の子たちは昔の子より力は落ちるのです。でも物差しを変えてください。「知らない漢字を調べて解決するテスト」「辞書でやっていた昭和の子」と「タブレットを持っている今の子」のどちらが強いですか、ということです。古い物差しでやるから、「ほらタブレット使ったら成績が落ちた」とか、「古い物差しでやったら、なんか漢字が書けなくなった、学力が下がった」と言っているのだけど、この「学力が下がった」という物差しがそもそも古いわけです。今の時代に合っていない物差しなのではないか、ということ。

ただし、共通テストや入試があるから、そういう綺麗事を言っても、目の前の子はもしかしたらこの物差しで求められているかもしれないので、入試対策としてはこれは必要、でも社会としては「今求められる方向」になっていかななくてはいけない、という風に考えている。ですから、東北大学などは一般入試を将来的にやめると言っている。やはりそのように、物差し自体を問える大学に、我々もならなくてはいけないと思っています。

さて、今時電話帳を使う人はいませんよね。それなのに、子どもには辞書を押し付けているのですよ。おかしいですよ。 (AIの) 反対派が「辞書は周りにいい言葉が載っているのです」などと言いつつ出すのです。僕風に言うと「電話帳も上とか下にいい居酒屋が載っているかもしれない」となるが、

そんなことは言わない。ですから、こじつけみたいな。だめな理由を並べる人がいっぱいいますが、それは本当に子どもにとって幸せか、ということは考えたいと思います。

日本の教育は苦勞させたりします。そうすると「健康のために電車や車を二度と使わないでくれ」と僕は言っているわけです。(電車や車)使ったら足腰弱くなりますから。「スマホを使ったら記憶力がなくなるし、自転車を使ったら足が弱くなるから、もうずっと歩きなさい」ということですよ。停電になったらどうするのか、とか言い出す人がいるわけです。「被災した時に困るから、火打ち石で毎日やっていたらいい」と僕は言います。ガス管が止まっても火打ち石でやる能力があれば生きていけると言う。そういうことではないだろう、ということに気付いてほしいわけです。新しい技術が来た時に、色々な理由をつけて「あーでもない、こーでもない」と言うのだけれど、「そこではない」ということです。求めているのは、今、子どもたちがどういう教育を求めているのか、ということです。新しい道具を否定する人がいるけれども、そうではない、ということです。



## ◆ AI 倫理を育む必要性

それでも AI 倫理がなければだめだと思います。プロポーズの言葉に AI を使うのはアリですか、ナンですか。「価値観が違う」と言っているから議論が噛み合わない。職員室で、例えば所見(に AI を使うの)がアリかナンかで揉めたりするわけです。そもそも「ボタンの掛け違いだ」ということに気付いていないのです。「アリ」だという人も、プロポーズの言葉をコピーするのが「アリ」だと思っているわけではない。賛成する人は「参考にする

からいいのでは?」と思っているわけです。反対の人は「AI を使ったら人の気持ちがこもらない」と言っているわけです。ですから「賛成か反対か」で揉めているのではなくて、「想像している AI 活用の絵が違う」ということです。そもそも議論になっていないのです。

ではこれはどうですか。「プロポーズの時にどちらがいいですか?」と言うと、「それは緑がいいでしょう。赤はだめでしょう」となって、先ほど分かれていた意見が収まるのです。プロポーズだろうが所見だろうが、「ちゃんと気持ちを届けたい」ということは同じなのに、なぜ議論になるかというところ、その議論の解像度、議論が細かくきちんと整理できていないからこういうことが起きるといことなのです。もう少し詳しく説明すると、「内容を直接使うのはだめでしょう」ということですが、参考にして「こういう言葉をやはり届けたい」と最終的に自分で考えるのはいい、「それだったら納得する」という話になっていくわけです。ですから、AI 活用は賛成とか、反対とか、色々な議論があるのですが、そこはもう少し丁寧に考えていく必要があると思います。

これと同じ話が、所見のことについても、各学校で(話題に)なるかもしれません。若手の先生方になっていく学生さんたちは、書けと言われても書けないけれど、AI と共に書くならいいのではないかと私は思っています。

さて、AI のニュースで、このようなものを見たことがあるのではないですか。ディープフェイクで卒業写真の顔がいやらしい写真にされて傷つく子がいるとか。これはやはり許せません。私も AI が何でもいい、と言っているわけではないです。自殺した子がいるというニュースを御覧になった方がいるかと思いますが、こういうことを理由に「AI はだめだ」という人がいるわけです。自殺した人がいるのは確かに痛ましいです。数が少ないからいいと言う気は全くありませんが、この命を無駄にしないように、AI はさらに改良されていくわけです。ちなみに、このようなことは日本ではまだそれほど起きていませんね。けれども、X(旧 Twitter)に「死にたい」「一緒に死のう」「おいでよ」と言って、死にそびれた、一緒に死んでしまっ

た、というニュースを何件も見ませんか。そちらの方が問題です。AI の時は大々的に報道して、X や Twitter、Instagram など止めないのですか。ここがそもそも情報操作なわけです。ですので、そこをきちんと見極めないと、メディアリテラシーとしては問題であるし、AI が問題なのではない、ということです。けれども、AI に問題があると言いたい一部勢力があるということは間違いないでしょう。

では、皆さんどうでしょうか、宿題に AI を使うのはアリでしょうか、ナシでしょうか。これも先ほどの話と一緒に。「答えを聞くのか」「やり方を聞くのか」どちらか、と議論すると、皆同じ（答え）なのだけれど、アリかナシかと聞いたときに「宿題に AI を使うのは小学生には早い」となってしまう。その議論は実は中身の問題だ、ということなのです。学校現場に入ると、意外とこういうレベルで揉めています、「教育に使っていいのか」と。「使い方の問題であって、使っていいかどうかというその議論はもう超えてください」ということなのです。AI が悪いのか、と言ったらそうではない、ということです。包丁で何を思い浮かべますか。殺人だと思いませんか。料理ですよ。危ないから家庭から刀狩りをしますか。道具は悪くないですよ。AI も悪くないし、包丁も悪くない。使い方が悪いということです。

私は全国で出前授業をしています、子どもに AI 倫理として「道具が悪いのではない、道具を使う心が悪い。使い次第で幸せにもなるし不幸にもなる」と伝えている。「よく使おうよ」ということが AI 倫理として必要なのです。

一番言いたいのは、「学校で使うとか禁止しているとか、色々な議論をしているけれども、その前に、子どもたちは既に使っていますから」「チャットピー（Chat GPT）と仲良くしゃべっているから」ということなのです。もう小学生は7割以上知っているし、人より AI に聞きます、という小学生が沢山いるという状況なわけです。グラフでは、「使っている、宿題に使っている」のが 39.7%、4割いますが、我が国の子供たちには「どう使っているか」と聞くと意外にいいかもしれない。「答えを聞いている」というのがいけば、倫理指導しなく

てはいけない、ということだが、そういうところを細かく見ていかないと「けしからん」というようになってしまうということです。

学校で（AI を）使うかどうか議論している間にも、子どもたちは AI を使っていますので、活用するかどうかは別として、AI リテラシー指導はしなくてははいけません。自転車を通学で使ってはだめだと言っている、交通安全指導はするのです。なぜか。放課後に子どもたちが自転車で痛ましい事故に遭わないようにするためです。学校で AI を使わない、けれども放課後に AI を使っているのです。ネットの社会で子どもたちが傷ついたり怪我したり、命を失ったりしないように、AI 倫理指導はしなくてははいけないわけです。ですから、AI 倫理指導は別に考えることも大事、ということです。

## ◆ 現状の生成 AI 活用

現状の生成 AI 活用について、我が国は、AI を活用している授業が 55 カ国中 54 位だったそうです。これはよくない状況だと思いませんか。我が国はデジタルなどで、世界で進んでいる感じだったのではと思うのですが。日本より上位の 53 の国を言えますか。そもそも 53 カ国を言えますか。言えないような国より順位が低いのです。普段、聞いたこともない、知らないような国に AI 活用が負けている我が国の教育は、大丈夫なのか、と考えた時に、やはり AI を使わなければならない、と思うわけです。AI を使っていくと、子どもたちに必要な力が身に付くのではないですか。

残念ながら我が国では、大人も全然使っていないのです。これは、日本人が悪いわけでない私は考えています。皆さん、今まで「この店の料理は口に合わない」「二度と来ない」というお店に行ったことがありませんか。そのお店の料理が1か月後には良くなっているだろうと思ってまた行きますか。行きませんよね。普通は1度失敗したら行かないのです。AI にも同じことが起きているのです。2022年に「AI はだめだ」「AI を使ったら嘘をついていた」というように「AI を使うのはだめだ」という認識が日本中に広がったのです。「子どもが使う」「こんな嘘もつく」という情報が、ワイドショーから沢山、日本人に流れたわけです。まずいと思った店に入らないのと同様、「AI」という名前の



ものに入っていくかないのです。さらには「あそこの店、まずかったらしい」「そうなの？私もやめておくわ」という悪い口コミが広がって、AIが使われなくなった。

諸説あるのですが、当初のAIのIQは大体65程度だったと言われています。そういう状況では、一生懸命やっても、やはり適切な答えが返ってこなかった、ということです。それから1年経つと、IQが85になります。IQで(人間の)平均は100と言っていますが、さらに半年経って、120です。人間の平均を超えてきました。昨年の夏には150を超えています。

大学入学共通テストのニュースを見ましたか。今年の共通テストでChat GPTは沢山満点を取ったのです。何の科目が苦手だったかという、国語です。苦手な国語では200点満点で180点です。ちなみに東大に入るための得点率は88%。Chat GPTが一番苦手な国語で90%とっているのです。

「Chat GPTは国語が苦手でした」「心を読む問題が苦手でした」というようにワイドショーで流れていました。最もできなかつた科目で9割正解していて、ほぼ満点で東大生より解いているのに「あなた、国語が苦手だよ」と言う。「苦手ではないよね」という話ですが、そういうメディアリテラシーは身に付けておく必要があります。

このような頭のいい相棒を教育に使わない手はない、ということです。教育だけでなく、我々の生活に使わない手はないです。北海道で言うと、教育大学がない、高校や塾もない街がある。家庭教師やカウンセラーもいない。そういうところでも365日24時間、子どもたちはIQ150の人に相談したり、悩みを打ち明けたりできる環境を我が国

は整えているわけです。これをGIGAスクールと言っています。ですから、やはり子どもたちに端末を持ち帰らせて、いつでもそういう窓口があるという環境を整えたいのです。これは学びのセーフティネットですよ。塾に行けない家庭状況の子がいる状況で、そういう子ども相談に乗ってもらえる。早くAIを開放してほしいと思います。

さて、AI活用について、今は校務でよく使われていますが、子どもたちの活用も広がり始めています。Geminiは小学生も利用可ですが、Chat GPTはだめなのです。ですから、教育で利用しようと思っても、まだ児童・生徒がなかなか使いにくい、というのが現状です。

(画像を示して)これは分かりますか。サイと鯛です。「話しなさい」「解きなさい」「やりなさい」という教育をしていたら、AIなど使いたくありません。「先生、これを調べたい」「これどうなっているのか知りたい」という時に、AIに意味があるわけです。教員も「ICTを活用しなさい」(あーめんどくさいな)「協働的な学びをしなさい」(一斉授業でいいじゃないか、うるさいな)、「〇〇しなさい」と思っていると、AIなど使いたくありません。けれども子どものことを思って「子どもたちが楽しめる授業がしたい」「ICTも活用したい」というように「たい」になった時にAIに聞くようになるのです。子どもたちも、勉強などどうでもいい、と言っていたら、どんな田舎の子にAIを配っても使わないですよ。ですから、我々はAIを使わせたいのではなくて、「学びたい」とか「より良くなりたいたい」という心を育てなくてははいけない。ですから、AI活用では、いいAIを使ったらいい、AIで作ったらいい、という話ばかりになるのですが、教員養成や教育委員会の研修では、心を育てて、どれだけ学びたがるか、どれだけいい授業を作ろうとする教員を生み出すか、というところに力を注ぐべきだと考えています。「〇〇がしたい」というのがAI活用の元ということになります。これは子どもも先生も同じです。

さて、旅行で使う交通機関について、皆さんは札幌まで行くとしたら何で行くでしょうか。大体飛行機ですね。早く目的地に着いた方がいいのです。なぜなら、札幌を色々楽しめるから。ただ、鉄道が

好きな人にとっては鉄道を選んでもいいのです。これを「DX」と呼んでいるわけです。デジタルで新しいところに早くたどり着くのがDX、技術革新なわけです。例えば、郵便で送るものがメールならすぐに届く。これがDX。メールだと返事が来るまで相手が読んだかどうか分からないけれど、(SNSだと)「既読」が付く。これがDX。このように、手紙がメールになり、LINEになっていった時に、すぐに相手が開いたかどうか分かるようになる。これがいわゆるDXと言って、デジタルの恩恵を受けて、我々がどんどん幸せになっていくということです。これは仕事でも色々あるでしょう、ということ。

このような生成AIを活用したDXを、これからどんどん進めていくこととなります。本当は、通常2時間コースや3時間コースなどの研修があり、実際にやってみる時間があるのですが、今日は時間がありませんので、また機会があればAIの活用法をお伝えしたいです。



## ◆ 今後の教育における

### 生成AIの可能性

最近「認知オフロード」という言葉があります。ただ「計算しておいて」と言うと計算力がつかない。「漢字はどう書くの?」と言うと漢字を覚える力がつかない。記憶していなくても引き出せるけれど、やはり考える力は大事だ、という考え方です。ですから、そこはAIに任せてはダメなのに、歴史上の人物に相談するAIを作っている人がいる。例えば、徳川家康の情報を入れて徳川家康のAIを作る。そこまではいいと思う。けれどもそれで「何をしたのですか」(参勤交代しました)、「どうしてしたのですか」(大名の力を弱らせるため)、「それは良かったと思っていますか」。良かったか

どうかは分からないだろう、という話なのです。AIに人の気持ちは分からないのです。けれども歴史資料を見ながら「多分そうだったのではないか」と思いを馳せたり、考えたりするところに歴史のロマン、歴史学習の面白さがあるわけです。

道徳もそうです。資料を入れて道徳の人と話します。「その時どう思っていたのですか」と人の気持ちをAIに聞くようになったらおしまいです。「この人はどう思っているのかな」と考えること自体に意味があるわけです。ですからこのことを我々はしっかりと考えていく必要があります。子どもたちには「覚えたり記憶するのも大事だし、考えることも大事。この脳みその力が落ちてしまうようなAIの使い方はダメなのでは?」と言ったりします。「それは本当にいいことなのかな」とか、「使いすぎはダメだよ」という話になっていく。

AIでやればすぐできることは、例えばなぞなぞです。「冷蔵庫の中にいる生き物はな—んだ?」(ゾウ)。「他には?」・・・これが思考停止というものです。「冷蔵庫の中にいる生き物は「ゾウ」というのは、記憶した情報です。けれども「他にもあるよ」と言われた時に考えるでしょう。この力がこれから大事なのです。なぜなら、変化の激しい時代だから、知識を覚えていてもそれを再生するだけではダメだからなのです。AI時代に求められるのは、むしろその力です。このように悩むことや考えることに意味があるので、なぞなぞには答えを知ることに意味はないのです。これは多分、探究学習も同じで、皆で「あ—だこ—だ」言って、うまくいくか分からないけれど色々な案がでたね、とか、こういう社会を作りたいね、という未来志向に意味があるので、「こうしたらいいんじゃない、AIが言っていたし」とそこで終わるとやはり求められる力は育たないのではないかと思います。

## ◆ まとめ

さて、この映像を御覧いただいて最後にまとめたと思います。これは何の映像でしょうか。何をしているか分かりますか。(動画再生:ひな鳥が口を開けている映像)これはひな鳥が口を開けて待っています。餌を与えられ続けると、口を開けたら餌が入ってくると学習したひな鳥です。何とも無残な姿です。自分で餌を取りにいかないという



ことです。昭和の教育をやり続けていたら、「今日はこれを考えます」「今日の課題はこれです」と教員が与え続けているクラスはどんな授業になるか。「先生、今日の課題は何ですか?」「準備できていて偉いね」とはならない。課題を気にしているとかではなく、「課題をもてる子」にしなくてはいけない。けれども与えられ続けたら「今日は何を考慮ののですか?」「今日はこれについて考えたいと思います」と教師が言い続けていたら、子どもたちは「考えたい」とならないでしょう。AI活用で大事なのは「考えたい」「知りたい」「学びたい」「話したい」の「たい」なのです。

(風刺画像) 今日のまとめとして、我が国の教室ではこちら側の2つが多いと思います。「これについて考えなさい」「書きなさい」「話しなさい」。ひどいのは、「話し合いなさい」と言わなくなったら、「今日はみんなと5分話し合いたいと思います」と言う。子どもは「あなたが5分話し合いたいと思っただけでしょ」となります。子どもはそう言われても「話し合いたい」にならないけれど、付度して、いいクラスはこうなるのです。ならないクラスは荒れているのだめだの、子どものせいにされてしまうわけです。不幸ですよ。子どもたちが「学びたいな」「考えたいな」ということを教員になる人には求めたい。くれぐれも与え続けて子どもが受け身になるような教育ではなく、「何かしたいな」と思う、その瞬間にAIの良さがさらに輝くので、そういう教育を広めていただきたいと思います。

## 5. 学 生 発 表

---

留学生等による児童・生徒との交流  
大学生による学習支援

記録の詳細についてはこちらをご覧ください（学生発表）⇒



日 時	2025年10月29日 12時～16時
参加者	足立区立平野小学校 6年生 85人、本学留学生・教職課程履修生 50人、教職課程センター及び多言語コミュニケーションセンター、足立区教育委員会

### 1. はじめに

世界のさまざまな国・地域から来ている本学の留学生及び教職課程履修生と足立区の小学生とが英語を使って異文化交流する「明海大学あけみ英語村」は、今年度で9年目の取組となった。

### 2. プログラム

- (1) 開村式
- (2) グループミーティング
- (3) イングリッシュ・キャンパス・ツアー
- (4) パトリツィア教授とタイソン准教授によるコミュニケーション・アクティビティ
- (5) 閉村式

### 3. 主なアクティビティの特徴

(1) イングリッシュ・キャンパス・ツアー  
グループミーティングで全員が自己紹介をしたり、留学生による母国紹介を聞いたりしてお互いに打ち解けあった後、自己紹介のあとは、班ごとにキャンパスツアーを行った。キャンパス内を巡る中で、ハロウィンのデコレーションが施された部屋を通る場面もあり、児童たちは目を輝かせ、「楽しい」「すごい」と声を上げながら、ワクワクした様子で見学していた。大学という非日常的な空間が、児童にとって大きな刺激になったようだ。

(2) コミュニケーション・アクティビティ  
アメリカ出身のパトリツィア先生とカナダ出身のタイソン先生がコミュニケーション活動を導いた。児童は、好きな食べ物について英語で質問する表現を教わり、その後、大学生に実際に英語で質問をした。覚えただけの英語を使って会話が通じた経験は、児童にとって大きな自信につながり、楽しそうに交流する姿がとても印象的だった。

### 4. シンポジウムでの学生発表の概要

(一部抜粋)

「あけみ英語村での経験は学生たちにとっても大変意義のあるものでした。まず学生は実際の児童と触れ合うことができます。参加した学生は教職課程を履修しており、児童と直接関わることで、教室内の学びだけでは得られない実践的な経験を積むことができました。子どもたちの反応を見ながら関わり方を工夫することは、将来教員を目指す学生にとって貴重な学びになったと思います。

次に、発話的な英語力を強化することができた点です。学生は、小学生にとって最も分かりやすい英語を使おうと意識しながら会話を行い、語彙や表現を工夫しました。その結果、「相手に伝えるための英語」を実際に使う経験を通して、よりコミュニケーションな英語運用能力を高めることができました。私自身もどういえば通じるか工夫をしながら児童と対話するようにしました。

後日実施したアンケートでも、約9割の児童が「先生や留学生の英語はわかりやすかった」と回答してくれました。これは児童の理解度に合わせて英語を調整した工夫が、実際の評価に直結した結果だと考えています。

私はこの四月から英語教員になるので、この学びを生かして、より伝わる英語で、児童が楽しいと感じられる授業を作っていきたいです。あけみ英語村は学びの多い、非常に意義のあるプログラムだと思います。」



## 中学生との異文化交流会

今年度参加校	足立区立第十中学校	実施日	2025年 6月26日
	足立区立鹿浜菜の花中学校	実施日	2025年 10月17日
	足立区立谷中中学校	実施日	2025年 12月17日

### 1.はじめに

足立区と連携協定を締結した2016年度より、足立区教育委員会と連携して小中学校に対して本学の研究・教育資源を生かした英語教育支援をおこなってきた。その一環として、世界のさまざまな国・地域から来ている本学留学生が足立区立中学校で異文化交流会をおこなってきた。今年度は、異文化交流学習会を3校で開催することができた。



### 2.シンポジウムでの発表

#### シモマエ：

異文化交流会とは大学の留学生と中学校の生徒が、主に英語をコミュニケーションのツールとして活用しながら、互いの文化や背景を学び合う活動のことです。単なる言語学習の場ではなく、文化的な背景を理解し合うことを目的としています。教室で中学生と円になって座り、留学生が写真やスライドを見せながら、それぞれの母国について紹介を行いました。地元の食べ物や有名な場所を紹介したり、質問をおこなったりしました。

私が実際に行ったフィリピンの紹介では、私が実際通っていた小学校の写真を見せながら、日本の小学校との違いを比べながら紹介しました。

また、中学生側からも日本の文化について英語で

紹介してもらいました。あるテーマは「給食文化」で「好きな給食は何ですか」(What school food do you like?)といった質問を通じて会話が弾みました。

さらに、「日本の観光地へのツアーを考えよう」という共同作業も行いました。具体例として、富士山ツアープランでは、朝8時に集合して登山をし、お昼にラーメンを食べて。午後3時にはいちご狩りを楽しむという魅力的なスケジュールを一緒に考えました。

#### 小松：

異文化交流会では、児童・生徒から多くの興味や質問が寄せられ、異なる文化に対して強い関心を持っていることを実感しました。そのやり取りを通して、相手の文化を理解することの大切さを学ぶと同時に、自国の文化についても「当たり前」だと思っていた習慣や価値観を見直すきっかけとなり、新たな発見がありました。

また、英語での表現力が十分でなくても、身振り手振りや表情を使いながら「伝えたい」という思いを持ってコミュニケーションを取ることで、相手に気持ちが伝わることを実感しました。こうした経験から、異文化交流においては語学力だけでなく、相手を理解しようとする姿勢や積極的に関わろうとする態度が重要であると感じました。

私は4月から東京都の教員になるので、これらの経験を今後にかけて児童・生徒の興味や疑問を大切に、対話を通して学びを深める授業づくりを心がけたいです。また、文化の違いを一方的に教えるのではなく、自国の文化と比較しながら考えさせることで、多様な価値観への理解を促していきたいです。

## 2025年度 都立田柄高校異文化交流会

参加学生：5人

日本語学科2年：葉 春麗

日本語学科4年：グエン ティ マイ リー

英米語学科1年：グエン ホアン マイ

英米語学科2年：ドロスト きいら

経済学科2年：グエン ゴック アン

### 1. はじめに

本交流会は、本学と高大連携協定を締結している東京都立田柄高等学校との教育連携事業で、本学外国人留学生と高校生との交流を通じて、お互いの文化についての理解を深めることを目的としている。

2025年度は、本学からベトナム、中国、オランダ出身の留学生5人が都立田柄高校に出向き、都立田柄高校からは1年生が交流会に参加した。

### 2. 実施概要

- (1) 日時：2025年11月12日（水）  
午後2時20分から午後4時まで
- (2) 会場：都立田柄高校

(3) 内容：

#### ① 文化紹介

当日は、感染症による学級閉鎖があったため、1学年の2クラスの生徒が対象だった。本学留学生は、2グループに分かれて、それぞれのクラスで自国の文化や日本での経験について、スライドを使いながら日本語で説明したり、生徒たちからの質問に答えたりした。

留学生が紹介した主な内容は、次の通りである。

- ・母語での挨拶
- ・自己紹介
- ・日本に来た理由
- ・日本に来て感じたこと
- ・日本で苦労したこと、失敗談
- ・日本で好きなこと、好きなもの
- ・日本で苦手なこと、苦手なもの
- ・自国の文化紹介（観光名所、国旗の特徴、通貨、食べ物、祭などのイベント等）

- ・日本語の勉強の仕方 など

#### ② 国際交流委員との懇談

各クラスでの文化紹介が終わり、沖山栄一校長先生の話を伺った後、都立田柄高校の国際交流委員と懇談会を行った。国際交流委員の中にはネパールやオーストリア出身の生徒がいて、お互いの文化を紹介したり、日本での生活や友人関係、高校生活などについて話した。日本語が難しい、という話題も出た。



### 3. ボランティア学生の感想

参加した留学生からは「田柄高校の生徒たちが元気で活発に質問する姿に感動して、参加してよかったと思った」「留学生にとって、学校訪問の機会はめったにないので、とても貴重な経験になった」などの感想が聞かれた。



参加学生 3人

英米語学科 4年 知念 咲花、花澤 真彩  
3年 蜂巢 瑠斗

### 1. 実施の概要

小学校英語支援とは、明海大学と浦安市教育委員会が 2017 年に締結した教育に関する連携協定に基づき、市内の公立小学校の外国語・外国語活動に学生がボランティアとして、授業中の学習支援を行っている活動である。

参加する学生は、英米語学科の学生のうち教職課程を履修し、小学生に対する英語指導についての理論と方法を学ぶ学生である。

授業では、担任教員・英語専科教員・ALT の求めに応じて、対話の相手役や発音のモデルを務めるほか、児童が教員の指示や説明を理解できるよう支援を行う。また、ペアワークや英語のゲームに児童とともに参加することもある。さらに、個別の支援が必要な児童に対しては、状況に応じた援助を行っている。こうした活動は、将来英語教員を志す学生にとって、在学中に学校現場で英語指導の実践に携わることのできる、極めて貴重な機会となっている。

こうした取組により、学生は大学での授業に加えて、小学生への英語指導の経験を積むことができる。これらの学修と実践を通して、特定非営利活動法人である小学校英語教育推進協議会から認定される小学校英語指導者資格を取得することも可能である。

今年度は、12月に週に1～2回の頻度で4年生が入船小学校において授業支援を行い、2月からは3年生が明海小学校で同様の活動に携わっている。

### 2. 参加学生の声

(1) 私は、浦安市立入船小学校において、小学校英語支援に参加した。外国語の授業では、チャンツや対話活動を通して児童が英語に親しめるよう支援するとともに、ALT と連携し、児童の前に立って実際のやり取りを行う場面もあった。活動を通して、学年や児童一人一人の

発達段階によって、同じ指示であっても理解の仕方に大きな差が生じることを実感し、個に応じた声かけや関わりの重要性を学んだ。また、学級経営の在り方が授業の雰囲気や児童の学習意欲に大きく影響することも理解できた。実践を通して、児童の成長を支える教員の役割とやりがいを実感し、今後教職を目指すうえでの意識を深める貴重な機会となった。

(知念 咲花)

(2) 私は昨年度に引き続き、浦安市立入船小学校において小学校英語支援を行った。主に5・6年生の外国語の授業に参加し、活動が停滞しているペアや困っている児童に個別に声をかけて支援した。特に英語でのプレゼンテーション準備では、発表練習や発音の確認を行い、児童が自信をもって発表できるよう関わった。こうした支援を通して、英語に不安をもっていた児童が少しずつ発話に挑戦し、成功体験を重ねていく姿を間近で見ることができ、成功体験が学習意欲を高めることを実感した。また、教員とALTの役割分担や声かけの工夫を観察することで、チーム・ティーチングが授業を円滑に進める上で重要であることを学んだ。さらに、児童が安心して英語を使える雰囲気づくりが、積極的な参加につながることを理解し、これらの成果を今後の指導に生かしたいと考えている。

(花澤 真彩)



## 浦安市 青少年自立支援「未来塾」

参加学生 13 人	日本語学科 4 年	羽毛田 晃志
	日本語学科 3 年	今津 翔
	日本語学科 2 年	石田 乃愛、酒井 淳平、柴田 侑李、下妻 小桜、 陶山 快斗、高瀬 亮、藤平 昂志、藤原 幹太、 保科 美咲、山崎 彩花
	英米語学科 3 年	蜂巢 瑠斗

### 1. 浦安市青少年自立支援未来塾

未来塾は、浦安市内の公立中学校 9 校の生徒を対象とし、基礎的・基本的な学力向上や学習習慣の定着を図ることを目的として、浦安市教育委員会が開催している学習支援事業である。週に 1 回、放課後に各中学校近隣の公民館に集まり、午後 6 時半から午後 8 時までの 1 時間半、英語と数学を隔週で学んでいる。5 月の下旬から 2 月の中旬までの期間、英語、数学、それぞれ全 17 回実施する。教職や民間教育事業の経験者と大学生が、学習支援員として協力し合って指導に当たっている。

### 2. 実施の概要

今年は、明海大学から日本語学科、英米語学科の学生 13 人が堀江、富岡、美浜、日の出、高洲の 5 ヶ所の公民館に分かれ、数学教室や英語教室を担当した。

- (1) 堀江中未来塾（堀江公民館）  
【数学教室】【英語教室】羽毛田 晃志
- (2) 見明川中・富岡中未来塾（富岡公民館）  
【数学教室】酒井 淳平、柴田 侑李、  
藤平 昂志  
【英語教室】柴田 侑李
- (3) 入船中・美浜中未来塾（美浜公民館）  
【数学教室】下妻 小桜、高瀬 亮、  
保科 美咲
- (4) 日の出中・明海中未来塾（日の出公民館）  
【数学教室】今津 翔、藤原 幹太  
【英語教室】蜂巢 瑠斗、藤原 幹太
- (5) 高洲中未来塾（高洲公民館）  
【数学教室】石田 乃愛、陶山 快斗、  
山崎 彩花

### 3. 参加学生の声

(1) 未来塾で初めて実際に生徒たちを指導する経験をした。生徒たちはとても静かに学習に取り組んでいたが、なかなか質問が出なかった。そこで、ただ待つのではなく、積極的に声をかけることを心がけた。すると、生徒たちからも声をかけてくれるようになり、私自身も未来塾に行くことが楽しくなった。また、人に物事を説明することの難しさを痛感した。そして、一番大切だと感じたのは、何よりも現場を知ることだ。直接生徒たちと触れ合うことで得たこの貴重な経験を自らの学修に活かし、教員になるべくしっかりと頑張りたいと思う。

(蜂巢 瑠斗)

(2) 未来塾では教育の現場の難しさとやりがいを感じることができた。基礎的なことが不安で来る子、勉強が得意で難しい問題を解きに来る子、静かな環境を求めて来る子、ただ友人に会いに来る子など、様々な動機を持って集まった子どもたちがいる中で、一人一人の意欲や理解度に合わせて指導することの難しさを痛感した。しかし、実際に中学生と深く関わったことで、普段大学で受けている教職科目の講義内容が、現場でどのように活かされるのかということ。「教える側の視点」からより具体的にイメージできるようになった。

(藤原 幹太)



## 明海小 児童育成クラブ

参加学生 5 人

日本語学科 4 年 瓜田 謙心、早乙女 愛菜、比嘉 彩夏、三島 茉姫  
3 年 寶木原 和心

### 1. 浦安市児童育成クラブ

浦安市の児童育成クラブは、いわゆる学童保育で、就労等により保護者が昼間家庭にいない小学生児童を対象に、放課後や土曜日、長期休業期間等に、家庭に代わる生活の場を提供する事業である。市内の全ての小学校区ごとに 17 か所に置かれている。その 1 つ「明海小学校地区児童育成クラブ」は、浦安市立明海小学校に隣接し、市の委託を受けて労働者協同組合ワーカーズコープセンター事業団が運営をしている。約 200 人の児童が登録をしており、毎日 160 人を超える児童が通って来て、自由に自分たちのやりたいことをして過ごす。小学校の校庭を走り回ったり、砂場や鉄棒等で遊んだりして楽しんでいる児童もいる。また、児童育成クラブの庭でドッジボールやサッカーをしたり、屋内で工作をしたり、静かに勉強をしている児童もいる。今年度は教職課程履修する日本語学科の学生 5 名が、週 1 回から 3 回、午後 1 時 30 分から午後 7 時 30 分までの時間帯で 3 時間程度、児童の見守りの支援をしている。

### 2. 明海小学校地区児童育成クラブが

#### 大切にしている 3 つのこと

- (1) やりたいことをできることに変える。
- (2) 子どもだけの世界を守る。
- (3) 見守られながら自分で考えて自分で決める。

### 3. 参加学生の声

(1) このボランティアに参加して強く感じているのは、子どもは自分の力で物事を解決する力を持っているということだ。見守りをしている時に、子どもが困っていると、つい助言をしてあげようと口を出してしまいがちである。しかし、その気持ちを少し抑えて、一歩下がって後から見守っていると、子どもたちはしっかりと自分で考えて答えを出していく。見守ること

は少し難しく感じたが、少し意識するだけで、子どもはたくさん考えてどんどん成長していくということを学んだ。うまくいかないことがあって、何とか自分で乗り越えなければと思い悩むこともあったが、職員の皆さんはもちろんのこと、いつも子どもたちがたくさん助けてくれた。私は 4 月から教員として働くので、ここで得た経験を糧に頑張っていきたいと思う。

(比嘉 彩夏)

- (2) 私は子どもたちの立場になって関わることの大切さを学んだ。活動を始めた当初は、子どもたちとの関わり方が分からず、どのように声をかければよいのか悩むことがあった。自分から話しかけてくれる子ばかりに目が向いてしまい、静かに過ごしている子たちには、なかなか働きかけることができずにいたのだ。そこで、私は自分が小学生に戻ったとしたら児童育成クラブでどのように過ごしているか考えるように心がけた。子どもたちの行動や感情をより深く理解できると思ったからである。その結果、子どもの様子にしっかりと目を向け、言葉をかけたり、話を聞いたりすることができるようになり、子どもたちが安心して心を開いてくれるようになった。相手の立場に立って寄り添うことが、信頼関係を築く上でとても重要であると実感した貴重な経験だった。





## 6. パネルディスカッション

---

### 生成 AI 時代の教育 ～ AI で変わる学びの可能性 ～

#### パネリスト

松本 博幸 (印西市教育委員会 DX 専門官)  
西野 厚 (東京都足立区教育委員会 統括指導主事)  
伊達崎 広 (東京都立南葛飾高等学校 校長)  
早乙女 愛菜 (明海大学外国語学部日本語学科 4 年)  
和田 航英 (明海大学外国語学部英米語学科 3 年)

#### コーディネーター

山本 聖志 (明海大学地域学校教育センター 教授)

記録の詳細についてはこちらをご覧ください (パネルディスカッション) ⇒



## 一 内容（発言の趣旨を踏まえた要約版）

### 1. はじめに

【山本】 本日は第1部の基調講演において、札幌国際大学の安井政樹先生から「これからのAI時代における学びの転換」をテーマにご講演をいただきました。このパネルディスカッションではさらに学校現場にスポットを当ててテーマを掘り下げていきたいと思っております。

【松本】 印西市では文科省の生成AIパイロット校事業に参画しています。全14校を指定して教育活動や校務での利用の両面で実践を進めています。学校によって子供の反応も、先生方の戸惑いも違ってきます。その差はスキルや能力ではなく、どちらかというと学校の風土や文化、ルール、授業設計で大きく変わってくるなというふうに思っています。

【伊達崎】 都立学校には今、「都立AI」というものがあり、授業でも校務でも両方使えるようになってきています。授業では、画像の生成AIを使うこともできるようになってきています。そのほかにCopilot、AdobeのFireflyなど、比較的AIを使う環境としては整っていると言えるのではないのでしょうか。

【西野】 足立区では現在、先生方の利用のみ申請により許可しています。学校だよりとか学年だよりのたたき台を作るとか、作ったものをAIと壁打ち（キャッチボール）しながらブラッシュアップしていくなど、そういったことをやっております。使用している割合は学校で言うと大体9割以上、教員の数で言うと2,200人程度が使っています。

【早乙女】 周囲の学生を見渡してみると、レポート課題をAIに丸投げして「はい、終わり。出します」みたいな感じの人もいれば、理系の友人などは、高度なプログラミングをAIに任せて、というように一人一人使い方が違うのが現状です。

【和田】 デザイン系に通っている友人など「意外とAIを使ったりするよ」と言っています。丸々AIに投げているわけではなくて、基本的には自分で作ったり、アイデア出しのためにAIを使ったりして、最終的に作品を作る、といった具合です。あと僕は、浦安市内の学習塾で働いていて、英語を教えたりする際、配布物などのベースを作ったりしています。

### 2. 生成AIはどのように

#### 活用されているか

【山本】 生成AIという言葉が知られるようになってまだ日は浅いと思っておりましたが、かなり活用が進んでいるということが分かりました。

次のセッションでは、急速に活用が進んでいる生成AIの利点についてご発言いただければと存じます。

【伊達崎】 生徒の学びの最適化のツールとしては、非常に大きな可能性があります。教員の働き方を改善していく側面があると考えています。

素材を集めたり、知識を補ったりするなど手間と時間のかかるところはAIが役立ちます。教員の働き方改革の面では、例えば教材を作ったり、試験の問題を作ったり、といったところで役立っています。

【西野】 この前、小学校の初任の先生がこんなことを言っていました。「AIを児童に見立てて、『国語のこういう授業で子供役をやって』とプロンプト（命令文）を入れると、『これだと分からないよ』『これだと思考・判断・表現に届かないよ』などの反応が返ってくる。人の前だと緊張するが、AIなら気楽です」と。

まずは先生方にいろんな校務とかで知ってもらって「あ、こんなことができるんだ」「たまに間違



えることもあるんだ」っていうことを肌で感じていただいて、授業活用に進めていきたいと思っています。

【松本】 学習者である子供たちの利点として、①個別化された支援 ②メタ認知を促進し子供たちの学習方略を更新できる ③反復的な探究を支援できる の3つが挙げられると思います。

一人一人のニーズに合わせてたり、言語化したり、失敗を恐れず修正を繰り返せることは大きな利点であると言えます。



【和田】 様々なことに関して時間短縮ができるので、そこがストレスフリーで、実際に新たな学びに繋げる時間を作ることができるというのは利点だと思います。ただ、自分の意見がどこにもないレポートではいけないので、そこは気を付ける必要があると思います。

### 3. 生成 AI を利用する上での課題

【山本】 課題についてはいかがでしょうか。

【伊達崎】 コロナの時代に授業のリモート配信が全国の学校で行われました。今まで授業は学校へ行って受けるものだったのが、そうでなくてもいいのでは、ということに気付きました。ただ知識や理解を伝えるんだったら、うまい先生の授業を YouTube 等で見ただけの方がよっぽどよく分かる。そこに AI が登場しました。

個別のいろんな知識とか、あるいは分からないところをちょっと教えてくれるっていうのは、AI に聞くと全部分かってしまうんです。そうすると今までやっていた知識伝達型の授業っていうのは、果たしてこれからも価値を保てるのだろうか。ここが非常に大きな課題になっていると思います。

【西野】 使い方を間違えると、子供たちが思考

する場面がなくなってしまうように思います。小・中学校の段階で言うと、昭和っぽい表現ですが「脳に汗をかく」といったところも必要なのかなと思っています。

あともう1つはハルシネーションが問題です。AI もたまに間違えるというところなんです。間違いだけでなく、立場によって捉え方も変わってくると思うんですね。その辺りの理解が必要です。情報活用能力における情報モラル、リテラシーといったところも育成していく必要もあると思います。

【松本】 課題としては、学習プロセスにおける質の低下やリスク管理、倫理の課題などが挙げられます。AI を使うとどんどん成果物が出て、認知的オフロード（記憶や判断の外部への依存）が起きやすくなってしまいます。そうしたことを踏まえた上で運用体制についても学校としてどうあるべきか検討することが必要です。

【和田】 学生の立場から見た課題としては、やっぱり AI を過度に使用する学生が出てきてしまうのは、防ぎようのないことだと思います。

AI に頼り切るのではなく、自分のアイディアや意見を大事にしていかなくはないと考えます。

### 4. 質疑応答



【山本】 フロアでご参加の皆様からご質問あるいはご意見等はございますか。

【質問者】 AI はデジタル機器ですので、使っているとそちらに集中が行って、勉強の途中で集中力が切れてしまうということも多くあると思います。AI を使う授業と使わない授業というものの棲み分けなどがあるのかというのを聞いてみたいと思います。

【伊達崎】（代表して回答）どの場面でAIを使って、どの場面で生徒に考えて判断させるか、これは授業設計なんですね。だからこの授業設計そのものがこれから問われてくるということになります。

その中でこの部分はAIを使おうとか、使わない方がいいのでとことん考えさせよう・・・そういったことを教員が意図的・意識的にしかも単元の中で計画的にできるかどうか。そこはとても大切なところになると思います。

【質問者】 ありがとうございます。スッキリしました。

## 5. 生成AIによって変わる 学びの可能性

【山本】 続いては、これまでの議論を踏まえて少し先の将来を見据えたときに、生成AIによって変わる学びの可能性について言及していただければと存じます。

【西野】 未来というところなんですけれども、やはり学びが変わるのかなというふうに思っています。その中で大きく変わるとしたら2つだと思います。まず1つは、多分学生の皆様も聞いたことがあると思いますが、学習の個別最適化が進むであろうということ。もう1つは、よくファシリテーターって言いますが、先生方、教員の動きが変わるのではないかと思います。

【伊達崎】 教員の仕事は、生徒をやる気にさせることです。ファシリテーターだったり、あるいはコーチング的な手法を使ったり、そうやって授業の中で「何だかめんどくさいな」って思って通って来ている生徒たちでも、授業に入ると先生に問いかけられて「なんだろう、考えてみたい」と思えるような、そんな授業をつくっていいのではないかと、というふうに思います。

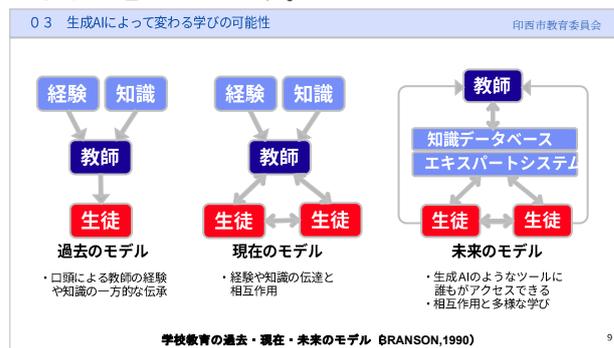
皆さんがこれから教壇に立ってやること1つ1つがこれから30年後の日本の教育を作り、ひいては日本の社会を作っていく原動力になります。そう思うと、この新しい教育スタイルをつくっていくことは、とてもやりがいのあることではないか

なと思います。

【松本】 未来のモデルというのは、生成AIのような高度な知識ツールに誰もが簡単にアクセスできるようになっていくことです。

これからは、知識を持っているかどうかということよりも問いの立て方とか考え直し方であるとか、根拠の確かめ方っていったところに、もっと重点が置かれるという方向に舵を切る必要が学校にはあるというふうに考えています。

生成AIがそれを後押しするような良いきっかけになると思っています。



【早乙女】 私は学びの可能性として考えられるものとして、学習における思考の質を高められるのではないかと、というふうに考えました。

AIに課題があつたらきれいにまとめてもらえるように全部投げちゃいましょう、というのではなく、結論に行くまでにも考えた過程が何個かあると思うので、そういったところをAIと一緒に考えていくことによって、自分の意見の強みであったり、逆に弱みであるっていうところを客観的に理解することができるんじゃないかなというふうに思いました。

## 6. まとめ

【山本】 ありがとうございます。

本日は生成AIの可能性や未来について学校現場にスポットを当てて考えてきました。

AIによる学びの質の転換は重要ですが、それを促すためには「教えの質の転換」も必要になってくるのではないのでしょうか。

安井先生の今日の基調講演の中に「タイの絵（～したい）」と「サイの絵（～しなさい）」、それから「マス（～します）」という絵がありました。

いわば指示・命令型から自主・探究型への転換です。これは、これまで行っている教育の全否定ということでは決してないと思うんですが、これからの教育の在り方を考えたときに、どのように理解していけばいいでしょうか。

【西野】 先ほどの例でいきますと、いかに深い学びにつながられるかということだと思います。本日、各パネラーの皆様も言っていたように、どちらかと言ったらこれまで知識偏重型だった部分からの脱却。思考・判断というところで、何かと何かをつなげるっていうところ、これは今後ますます重要であり、いろいろな教科について言えることだと思います。

【伊達崎】 私からもひと言。実は、例えば思考・判断するところ、表現することが非常に大事だということは、別に AI が出てきたから言われていることではないんですね。学習指導要領の中でも主体的・対話的で深い学び、これを追求するんだと言っていますし、3 観点の中にも思考・判断・表現が入ってるわけで、前々からずっと言われていることだったと思います。

それを今この AI が出てきたことによって、一層やりやすくなった。それはなぜかと言うと、知識の部分が今まで授業の中で大きな割合を占めていたけれども、そこから時間的にも労力的にも解放される可能性が出てきたということなんです。本来、昔から追求してきた学習指導要領の中で謳われていることが実現しやすくなったということが、一番大きなことではないかなというふうに私は感じています。

【松本】 そうですね。皆様おっしゃっている通りだと思います。多くの子供は、特にどんな問いを立てたらいいか分からない子が結構多いんですね。いろんな問題は見えるんだけど、問いを立てられない。どうやって見通しを持って学習を進めていけばいいかっていうのが結構難しい。

例えばコロナの時期に休校になった際、「先生、どうやって勉強すればいいんですか」と聞く子が結構いました。そういった問いの立て方とか見通しの持ち方とか、どの場面でどう立ち止まって考え直したらいいのかっていうところが、認知的な

力とは別に必要になってくるので、そこを意識して育てられるような授業設計を組んでいかないといけないのではないかと考えています。

03 生成AIによって変わる学びの可能性 印西市教育委員会

AIの登場は、新しい学びを生み出すきっかけに。

「答えを出す」から「問いを立て、対話する」学びへ	・ 考えを言語にするなどで外在化し、 ・ 問い返しや対話を通して振り返ることで、 ・ 自分の考え方や学び方を更新していく学び。
一斉・一方から個別・反復・循環へ	・ 個別最適化された学び ・ 立ち止まり、考え直すことが価値になる授業 ・ 学習の進度よりも、思考の質に焦点を当てた設計
教師の役割が「教える人」から「伴走者、思考 & 省察支援者」へ	・ 答えを教えるより、問いを設計しつつ伴走する役割 ・ 子どもの思考のズレや変化を捉え、意味づける役割 ・ 省察を通して学びを次につなげる役割

私は、「決まりきった正解を、いかに速く、正確に導き出すか」という学習から、人間を解放する存在です。

10

【山本】 どうもありがとうございました。本日は生成 AI 時代の教育をテーマに掲げ、現状と課題、そして今後の展望について議論をしてみました。

パネリストの皆様からは、生成 AI はこれからの教育には欠かせない。しかし、活用にあたっては指導上の留意事項が当然あるので、これについては、十分踏まえていく。生成 AI によって変化する学びの質の転換、さらには教えるの質の転換といったことも、今後十分に理解して応用していく必要がある。こうした様々な重要な観点を共有していただいたところだと思います。

学校、地域、大学が連携し、まだまだ発展途上であり、さらに可能性が追求される生成 AI について、そのメリットを最大限に生かしながら効果的な教育の推進を図ってまいりたい。本日の会がそのためのきっかけ作りになればいいと考えています。

パネリストの皆様、ご参加いただいた皆様、心より感謝を申し上げます。

これからも子供たちの未来のために、それぞれの立場でできることを考え行動していければと思います。

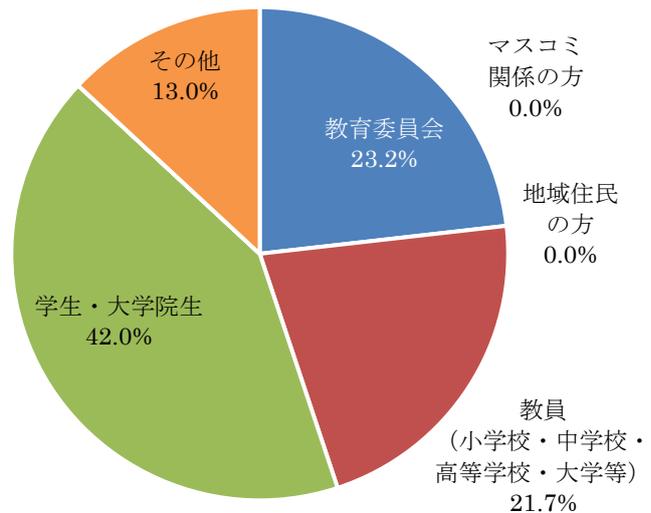
本日は大変にありがとうございました。

## 7. アンケート

### ◆所属を教えてください。(回答必須項目)

教育委員会	16人
教員 (小学校・中学校・高等学校・大学等)	15人
学生・大学院生	29人
マスコミ関係の方	0人
地域住民の方	0人
その他	9人
計	69人

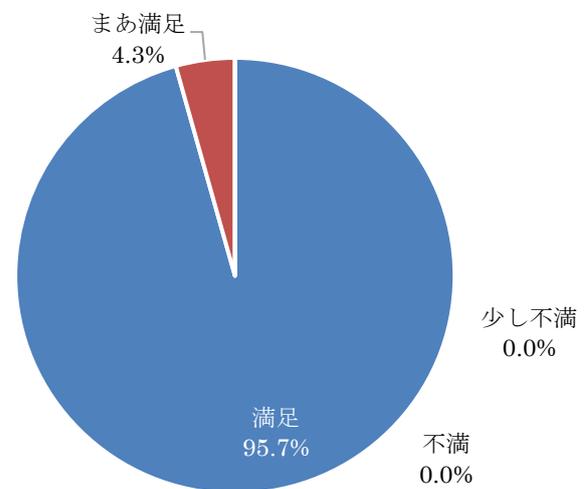
- ・学生・大学院生の回答は減少しているが、マスコミ関係、地域住民の方を除く項目が昨年を上回った結果となった。



### ◆基調講演はいかがでしたか。(回答必須項目)

満足	66人
まあ満足	3人
少し不満	0人
不満	0人
計	69人

- ・少し不満、不満の票数がなくなり、昨年よりも満足度は向上している。



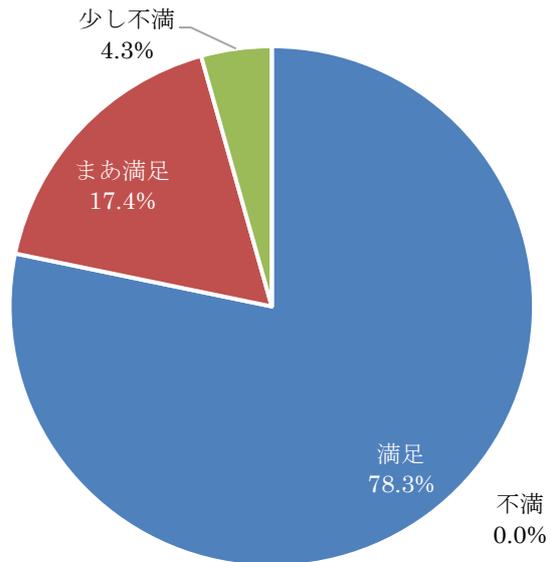
### 【上記の理由をお聞かせください。】

- ・基調講演が興味深かった。
- ・多角的に思考することの大切さに改めて気付くことができたから。
- ・どの発表も楽しく聞かせていただきました。特に講演からは新たな視点をいただきました。
- ・教育が転換していかなければならない理由が具現化された内容で、現場の教員へ ICT の有効活用の必要性を伝えていく上で非常に参考になりました。
- ・教育現場での生成 AI の活用に関心のある教員にこそ、ぜひ本講演を聞いていただきたいと思いました。
- ・2月から生徒が授業で AI の使用を始めたので、とても参考になりました。
- ・生成 AI 活用の「考え方」が整理出来、これまでとは異なる視点での新たな利活用方法を見出せる気がしました(そのための体制整備も必要となりますが)。
- ・時間不足だったようですね。
- ・現場での実践が踏まえられていて説得力があった。
- ・ためになったと思うから。
- ・これから教員になる上で、考えさせられることが多かったです。
- ・AI との向き合い方を改めて学ぶことができました。また、作曲ができることに驚きました。
- ・授業内での AI の活用方法に困っていたから、とても助かる基調講演でした。「しなさい」ではなく生徒が「したい」と思える授業案を作りたいです。
- ・有益な情報を聞いた。
- ・内容がとても充実していたから。
- ・生成 AI の可能性を改めて実感できる貴重な機会となりました。
- ・具体的な事例を伴う説明がとてもわかりやすかったため。

◆学生発表はいかがでしたか。(回答必須項目)

満足	54人
まあ満足	12人
少し不満	3人
不満	0人
計	69人

- ・昨年と比較すると満足の割合が減り、まあ満足、少し不満の値が増加している。



【上記の理由をお聞かせください。】

- ・学生さんの熱心な取組が見えた。
- ・素晴らしい。みなさんが教壇に立つことを心待ちにしています。
- ・分かりやすい発表でよかったです。
- ・しっかりと児童・生徒に向き合っている姿が見られて嬉しく思った。これからも、悩み戸惑いながらも諦めずに歩んでほしいとエールをおくりたい。
- ・足立区との連携事業では、学生の皆様のご理解とご協力に感謝いたします。発表の中で、「学生と児童生徒の相互理解」という感想をいただけて非常に嬉しく思います。今後も明海大学と足立区との間で、お互いの効果を高める事業にしていきたいと思います。
- ・地域連携事業に参加した学生がどのように考えて取り組み、学びを得ることができたのか分かりやすく伝わってきました。
- ・よく分かりました。
- ・カンペがあるにしてもそれを聴衆の前で読み上げるのではなく、投影された資料を図示しながら説明するプレゼンの習得を希望します。
- ・経験に基づいて、しっかり実践した結果のまとめで、それぞれに感銘を受けました。
- ・何をしたか、何を学んだかがきちんと伝わって来た。
- ・どんなことをしたのか良くわかったから。
- ・最後の発表、無事終わって良かったです。
- ・いろいろな学生の取り組みを知ることができた。
- ・各々がボランティア活動に、意欲的に取り組んでいることが発表を聞いてからとても理解出来たため。
- ・やったことや成果などが分かりやすかった。
- ・自分は参加していない活動の内容を知ることができたから。
- ・学生が最後まで真剣に取り組む姿勢に感銘を受けました。
- ・実体験に基づいた発表内容でとても良かったです。

◆パネルディスカッションはいかがでしたか。(回答必須項目)

満足	69人
まあ満足	0人
少し不満	0人
不満	0人
計	69人



- ・昨年よりも大幅に満足度が向上している。

【上記の理由をお聞かせください。】

- ・様々な視点のお話を伺えた。
- ・それぞれのお立場から示唆に富むお話しを伺えました。
- ・現場の様子がよくわかりました。
- ・学校で実際に授業を担当している先生がパネラーに加わっていても良かったかもしれません。
- ・足立区をパネリストに加えていただきありがとうございました。山本教授の進行により、それぞれの教育現場における現状や取り組み、今後の課題を共有することができ、生成AIによる授業改善の視点を俯瞰的に考える機会になりました。
- ・学生を含め、それぞれの立場からの知見や経験に基づくお話が非常に参考になりました。
- ・AI使用での生徒の利点・課題、どのように学ばせ、どのように教えるのか聞けて良かったです。
- ・先生方の考え方の整理が明快で分かりやすかったです。学生もしっかりと持論を持っていて安心

- ・しました。
- ・パネラーの先生方が、まさにファシリテーターとして学ばれて来た方達で、実態も予測もよく分かりました。質問も、回答も、学生さんも含めてよく分かる内容でした。
- ・いろいろな角度からの話が聴けて、改めて教育現場でのAIの必要性を実感することができました。
- ・学生と先生方とのAIの解釈について深く考えることが出来た。
- ・改めて考えさせられることを身に染みて感じた。
- ・登壇されていた皆さんの意見が素晴らしいと感じたから。
- ・パネリストの皆様の率直なお話を聞くことができ、大変参考になりました。
- ・活発な意見交換がなされていて興味深かったです。

◆Zoomによるオンラインで参加した方にお聞きします。

映像や音声などの配信はいかがでしたか。

※回答数6件の為、集計表のみ掲載

満足	3人
まあ満足	2人
少し不満	1人
不満	0人
計	6人

- ・視聴者から音声途切れたとの意見がいくつか見受けられたが、配信データは問題がなかった為、原因が不明である。

【上記の理由をお聞かせください。】

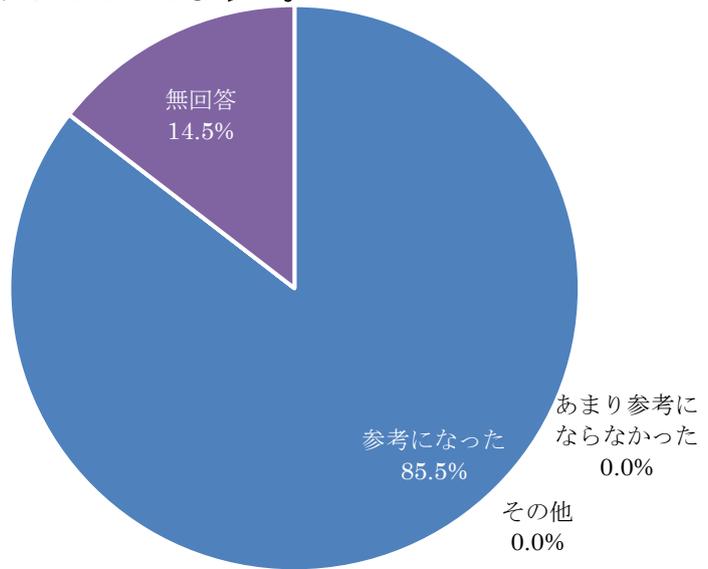
- ・パネルディスカッションの途中で音声の途切れた場面がありましたが、私側の原因なのかもしれません。
- ・私だけかもしれませんが、途中で音声聞こえなくなりました。
- ・ずっとクリアだった音声途中で数分間途切れ

- ・しました。
- ・最後の部分で音声途切れ、聞けない時間が残念でした。
- ・オンライン参加をスムーズにすることができたため。

◆配布資料（リーフレット）は参考になりましたでしょうか。

参考になった	59人
あまり参考にならなかった	0人
その他	0人
無回答	10人
計	69人

・昨年と比較すると、「参考になった」との回答が大幅に増加している。



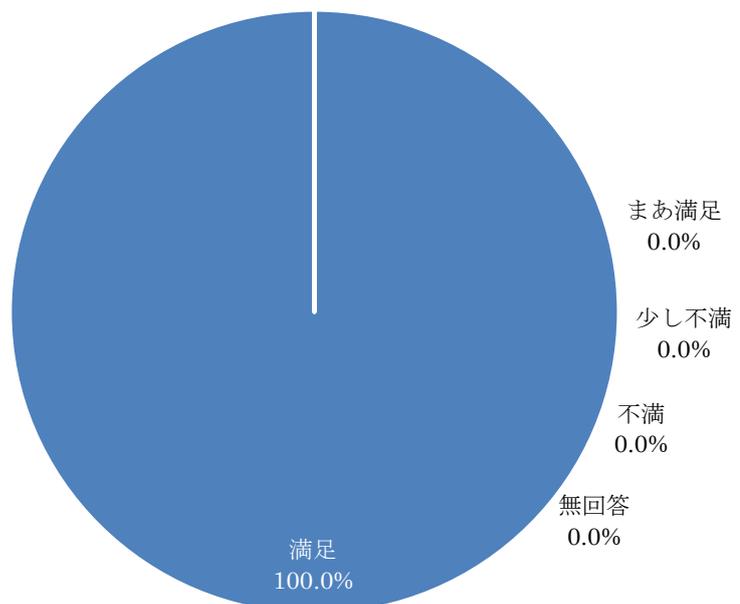
【上記の理由をお聞かせください。】

- ・活動内容や論点がまとめられており、デザインも含めて非常に見やすい資料でした。今後の参考にさせていただきます。
- ・説明が簡潔かつ写真入りで分かりやすかったです。
- ・学生による発表の発表者の紹介の掲載があった方が良いと思います。
- ・内容の要点がよく示されていた。
- ・見やすく、分かりやすかった。
- ・簡潔でわかりやすい。
- ・活動内容が充実していて、それについての具体的な説明がされていたから。
- ・要点が整理されていて読みやすく、シンポジウムの理解が深まりました。
- ・内容が見やすく、メモ欄も活用しやすかったため。

◆総合的に見て、本シンポジウムにご満足いただけましたか。（回答必須項目）

満足	69人
まあ満足	0人
少し不満	0人
不満	0人
無回答	0人
計	69人

・全員が満足という素晴らしい結果となった。



◆最後に、ご自由にご意見、ご感想等をお聞かせください。

- ・今後ともよろしくお願ひします。
- ・先生を目指したいと思う学生さんを一人でも多く育てていただいていることに感謝です。あとは学生さんを受け取った学校側や教委側の先生を育てる覚悟なのだろうとあらためて思い知らされました。
- ・今後、教育が目指すべき内容の方向性が具現化された内容で、非常に参考になりました。
- ・昨年度も参加させていただきましたが、昨年度以上に学びや気づきも多いシンポジウムでした。運営に携わった皆様、ありがとうございました。
- ・貴重な講演及びお話をありがとうございました。
- ・安井先生のお話をもっと長時間聴いてみたいです。また、最後の作曲を見て、本学でもっと多様な生成 AI の利活用の模索が出来るのではないかと思います。
- ・78 才の初任者指導教員です。大変学ばせていただきました。Facebook で学部の取り組みをつぶさに拝見。多岐にわたり、教員養成の為の努力をされて来た事に感銘を受けていますが、学生の皆さんが十分な力をつけて、志高く教師を目指していること、私の担当も見事に現場で力を発揮しています。さて、様々な学習者がいる中で、教師が「知識偏重から思考重視へ」の教えの質の転換を可能にすることは大変な事ですね。伴奏者としての専門性を何時、何処で身につけるか、真摯に受け止めたいと思いました。
- ・全体的に満足だった。
- ・学校を支援するために、明海大学がサポートしていることだと感じた。
- ・今後の実践や自身の関わりを見直すきっかけとなりました。大変有意義なシンポジウムでした。ありがとうございました。

## 8. 2025年度METTS事業参加学生一覧

### 明海大学あけみ英語村 2025 (留学生)

英米語学科4年 グエン ホン ユウ  
英米語学科4年 ヴォ スァン フォン  
英米語学科3年 エブリン ホマウアス  
英米語学科3年  
シモマエ サイリエル ミー ピニオン  
英米語学科2年  
ダオ ホアン トウン キェット  
英米語学科2年 ドロスト キイラ  
英米語学科2年 シャルチ ヒラ  
英米語学科2年 カトウ コジョ カミラ  
英米語学科1年 グエン ホアン マイ  
経済学科2年 グエン ティ マイ リー  
経済学科2年 フィン ティ アン ツー  
経済学科2年 ダン ティ ミン ヒエン

### 明海大学あけみ英語村 2025 (教職履修生)

英米語学科4年 大場 伊織  
英米語学科4年 霜方 柚奈  
英米語学科4年 知念 咲花  
英米語学科4年 花澤 真彩  
英米語学科4年 福山 杏吏  
英米語学科4年 芳野 友介  
英米語学科3年 大塚 翼夢  
英米語学科3年 鹿島 涼太  
英米語学科3年 木原 悠  
英米語学科3年 清島 勝斗  
英米語学科3年 小泉 優斗  
英米語学科3年 瀬能 桜  
英米語学科3年 蜂巢 瑠斗  
英米語学科3年 吉田 彪  
英米語学科3年 和田 航英  
英米語学科2年 新 健太郎  
英米語学科2年 阿部 未鈴  
英米語学科2年 石井 柊成

英米語学科2年 岩田 聖晃  
英米語学科2年 大西 萌衣  
英米語学科2年 大森 果穂  
英米語学科2年 佐藤 咲綺  
英米語学科2年 辻 夏綺  
英米語学科2年 橋詰 彦輝  
英米語学科2年 初田 琳  
英米語学科2年 細谷 桃花  
英米語学科2年 三村 祐希

### 足立区中学校異文化交流会 (第十中学校)

日本語学科2年 ヨウ シュンレイ  
英米語学科4年 ヴォ スァン フォン  
英米語学科3年 エブリン ホマウアス  
英米語学科3年 サイリエルミー シモマエ  
英米語学科2年

ダオ ホアン トウン キェット

英米語学科1年 グエン ホアン マイ  
英米語学科1年 ミカ ビーズリー  
英米語学科1年 アレクサンドラ アオイ  
英米語学科1年

モハマド アブドゥエルタワブ

アブドゥエルアジズ イナース

不動産学科1年 リ ホンチェ

### 足立区中学校異文化交流会

#### (鹿浜菜の花中学校)

日本語学科4年 グエン ティ マイ リー  
日本語学科3年 ワイラク ティ ミラクル  
英米語学科4年 ヴォ スァン フォン  
英米語学科3年 エブリン ホマウアス  
英米語学科3年 サイリエルミー シモマエ  
英米語学科3年 マムグン ナンディニ  
英米語学科1年 グエン ホアン マイ

### 足立区中学校異文化交流会（谷中中学校）

英米語学科4年 グェン ホン ユウ  
英米語学科4年 ヴォ スァン フォン  
英米語学科3年 和田 航英  
英米語学科3年 鹿島 涼太  
英米語学科3年 上西 来実  
英米語学科3年 蜂巢 瑠斗  
英米語学科2年

ダオ ホアン トウン キェット

英米語学科2年 キイラ ドロスト  
英米語学科1年 グェン ホアン マイ  
経済学科2年 ダン ティ ミン ヒエン  
経済学科2年 フィン ティ アン ツー

### 都立高校異文化交流会（田柄高校）

日本語学科4年 グェン ティ マイ リー  
日本語学科2年 葉 春 麗  
英米語学科2年 ドロスト きいら  
英米語学科1年 グェン ホアン マイ  
経済学科2年 グェン ゴック アン

### 浦安市小学校英語支援

英米語学科4年 知念 咲花  
英米語学科4年 花澤 真彩  
英米語学科3年 蜂巢 瑠斗

### 浦安市青少年自立支援未来塾

日本語学科4年 羽毛田 晃志  
日本語学科3年 今津 翔  
日本語学科2年 石田 乃愛  
日本語学科2年 酒井 淳平  
日本語学科2年 柴田 侑李  
日本語学科2年 下妻 小桜  
日本語学科2年 陶山 快斗  
日本語学科2年 高瀬 亮  
日本語学科2年 藤平 昂志  
日本語学科2年 藤原 幹太  
日本語学科2年 保科 美咲

日本語学科2年 山崎 彩花

英米語学科3年 蜂巢 瑠斗

### 浦安市明海小児童育成クラブ

日本語学科4年 瓜田 謙心  
日本語学科4年 早乙女 愛菜  
日本語学科4年 比嘉 彩夏  
日本語学科4年 三島 茉姫  
日本語学科3年 寶木原 和心

### 英語部活動支援（江戸川区立篠崎中学校）

英米語学科4年 霜方 柚奈

### 校内寺子屋（葛西南高校）

英米語学科4年 知念 咲花  
英米語学科2年 石井 柊成



